4.　医療の質・安全にかかるマネジメント能力強化

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】
ベトナム国は、保健省の通達を受けて各病院がクオリティ・マネジメントシステムの構築に取り組んでいる。医療の質と安全の格差は今後 UHC を推進する上でも課題となる。

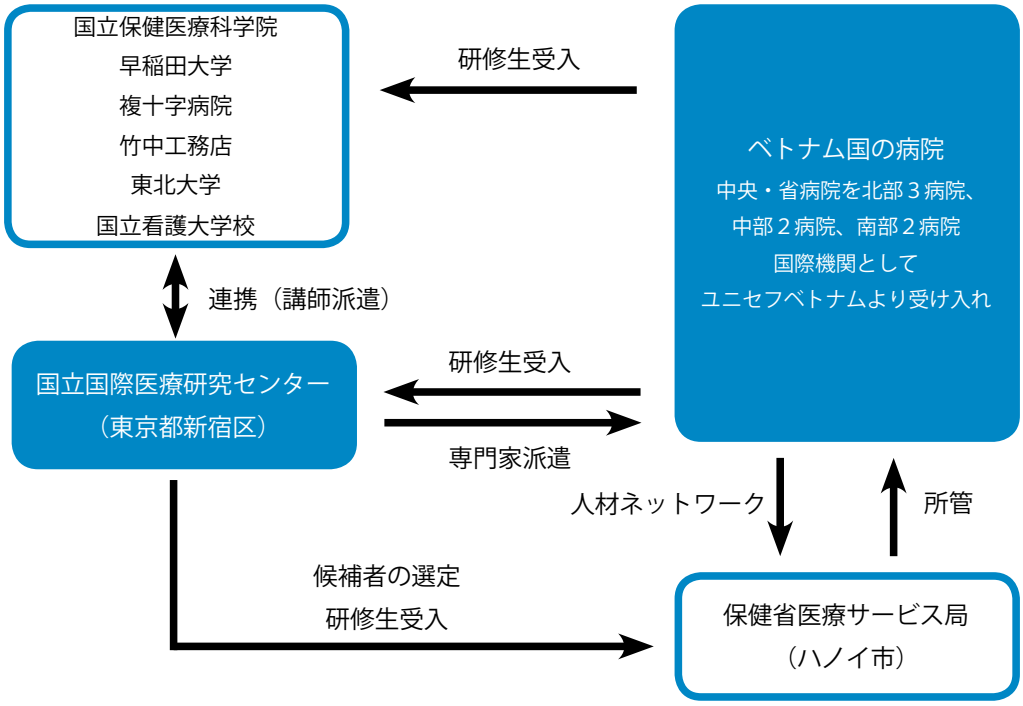
【活動内容】
- 日本にて、『医療の質・安全研修』を実施した。
- ベトナムにて、『医療の質・安全フォーラム』と『医療安全・院内感染合同セミナー』を開催した。

【期待される成果や波及効果等】
ベトナム国で医療の質・安全の確保に中核的に取り組むことが期待されるクリティカル・マスの育成に協力した。クリティカル・マスは保健省と協力して同国の医療を質・安全の観点から改革していくことが期待される。同国では引き続きクリティカル・マスの育成が望まれている。

＜研修実施結果＞

7月　研修生受入（8名）
- 医療の質・安全
- クオリティ・マネジメント
- ヒューマン・ファクター等
- 日・越の医療機関における医療の質・安全の取り組み事例紹介

専門家派遣
- 事前・事後調査（8回、延 12 名）
- 現地フォーラム（104 名、57 施設）
- 合同セミナー（314 名、3 施設）



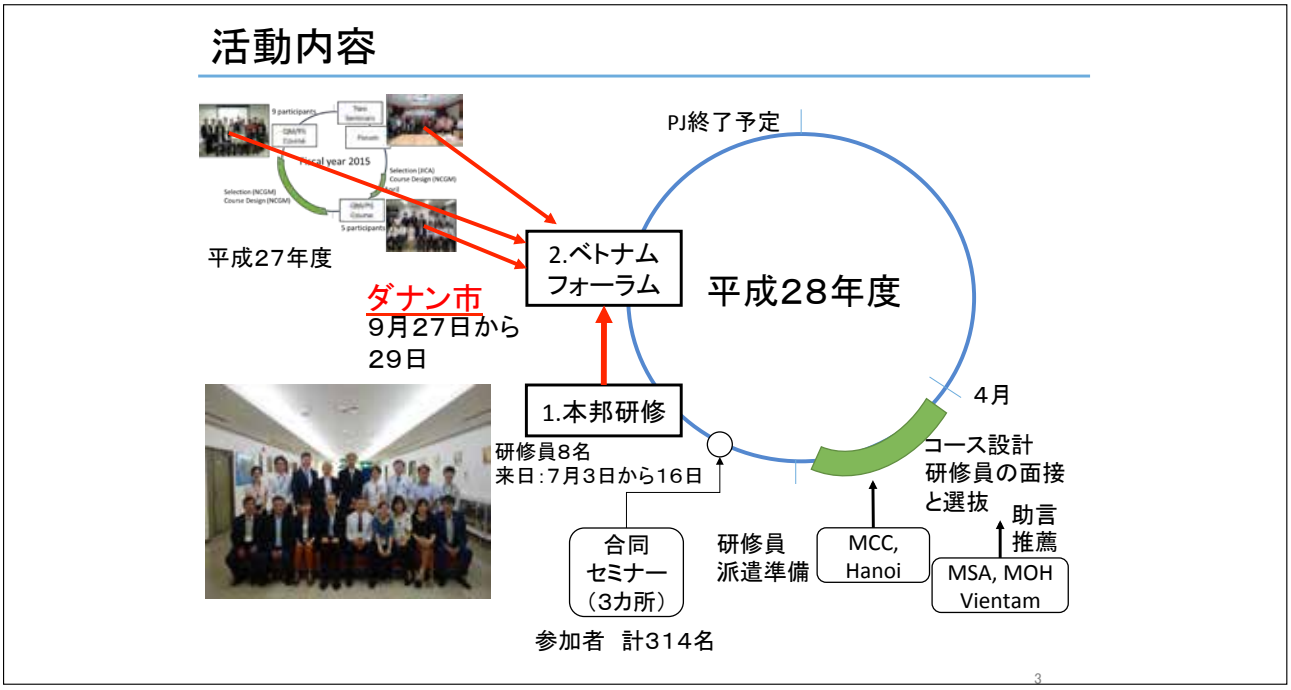
- 「我が国（日本）の公的医療保険制度についての経験の移転」や「先端医療についての技術移転」等を着実に実行する。
- 急速な医療技術の進歩を経験するベトナム国では、卓越した医療を提供するのみならず、確実な医療を提供する仕組みづくりが急務である。
- 本研修では、ヘルスケアの質と安全の確保に取り組む事が期待される保健スタッフの育成を目的とする

※保健スタッフ＝病院質管理課の課長・副課長（医師）
保健省の担当官（医師等）

クリティカル・マスの形成
質・安全の観点で医療システムを改革する担い手

2

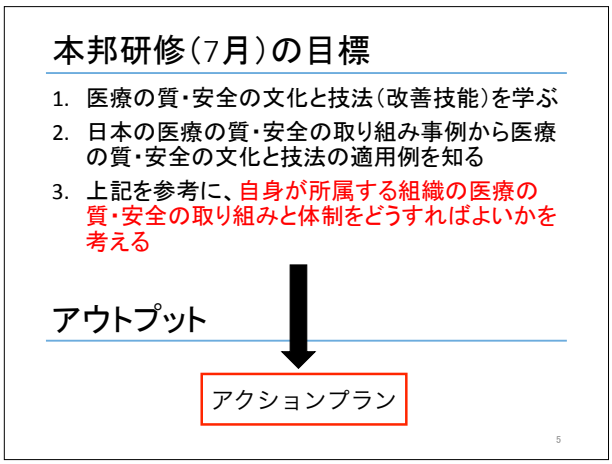
ベトナム国の保健スタッフを対象とした医療の質・安全にかかるマネジメント能力強化事業の報告をさせていただきます。我が国を含む先進国では医療技術の進歩と医療現場の調和が医療事故といった問題を招いてきたと言われています。急速な医療技術の進歩を経験するベトナム国でも同様の問題を招くことは想像に難くありません。そこで本プロジェクトでは卓越した医療を提供するのみならず、確実な医療を提供する仕組みづくりが急務であると考え、医療の質・安全の確保に取り組むことが期待される保健スタッフ、すなわちクリティカル・マスをベトナム国に形成する過程を支援することを目的としました。



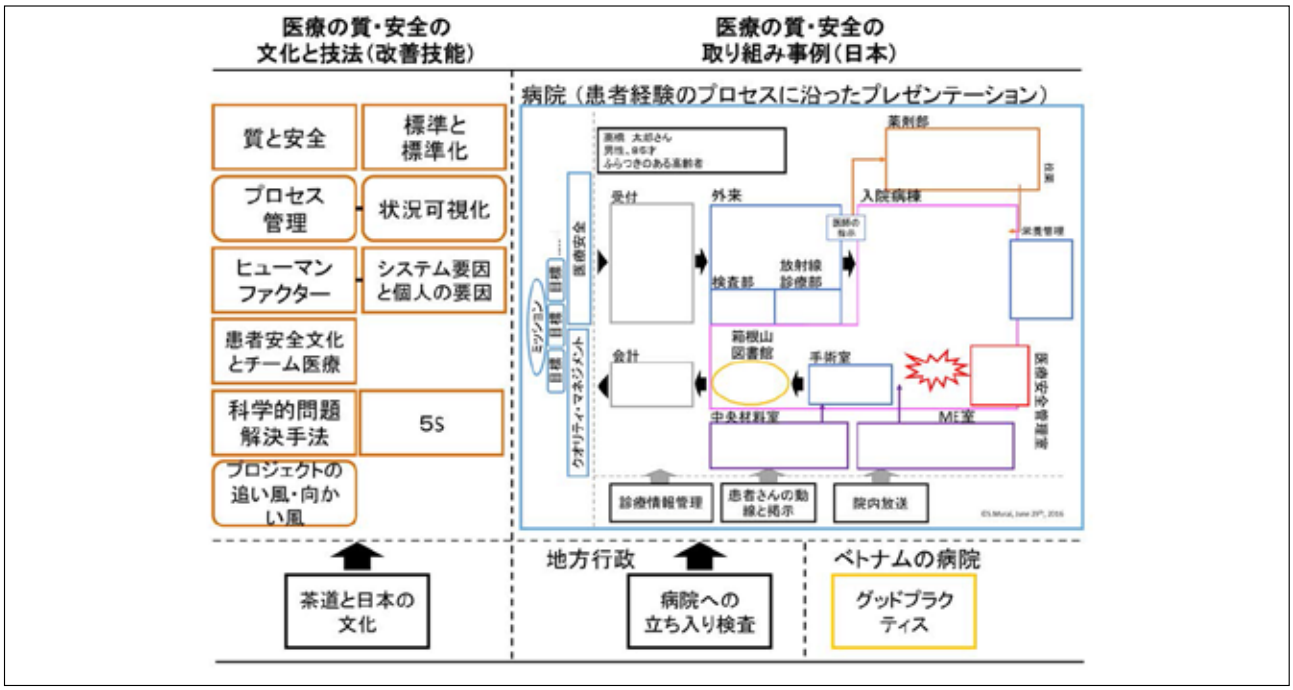
本事業では医療の質、安全に関する本邦研修とベトナム国医療の質安全フォーラムの開催、そして医療の質・安全の合同セミナーの 3 つの活動を行いました。フォーラムは、本邦研修のアウトプットであるアクションプランを本邦研修の修了生が発表する機会として設けました。セミナーは、3 つの病院における医療の質・安全の周知と、日本人専門家が現地をより深く理解する機会として設けました。これらの準備のために 4 月から延べ 12 名の日本人専門家をベトナムへ派遣し、計 8 名のベトナム人医師、病院の質・管理副部長と保健省推薦によるユニセフのベトナム人専門家を日本に受け入れました。

FY2015	FY2016	FY2017
267	418	
27	57	

結果、本事業の取り組みは述べ 418 名のベトナム人医療関係者と彼らが所属する 57 施設へと波及しました。



１つ目の活動である本邦研修では、医療の質・安全の文化と技法を学び、日本の医療の質・安全の取り組み事例から医療の質・安全の文化と技法の適用例を研修生が知る機会を設けました。特徴的なのは、これらを参考にして、研修員が自身の所属する病院、保健省、ユニセフにおける医療の質・安全の取り組みをどうしていくか考えるアクションプランの形で整理したことです。



研修は、（1）医療の質・安全の文化と技法の理論、（2）日本の医療の質・安全の取り組み事例と日本の地方行政の取り組み事例と（3）ベトナムの病院の取り組み事例を通して、研修生がベトナムで所属する病院で医療の質・安全にどのように取り組むかを考えてもらいました。ここで示したマネジメント技術の要素について理論と実践の両方をなるべく同日に学べるよう研修プログラムを配置しました。

これらは、国際医療研究センター病院を見学した時の様子です。病棟、透視室、医療安全パトロール、外来棟、手術室など、様々な部門を見学しております。

他に、薬剤部を例とした 5S の演習、患者中心の心を学びながら日本の文化を知る茶道を体験しました。

あとは手術室等を見学し、このような形で終了証書を授与しました。

研修員の反応 （4段階評価） 5月研修は5段階を4段階に換算

1. 研修目標を達成したか？

研修内容の業務への応用可能性は、**全員が活用できると回答**

n=5人	n=9人	n=8人
5月研修	11月研修	7月研修
3．7点	3．3点	4．0点

2. 研修デザイン
   - プログラムデザインの適切さ ※1：期待充足度で代用

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
4．0点*1	3．8点	4．0点

   - 講義の質の高さと理解しやすさ

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
3．8点	4．0点	4．0点

   - テキストや研修教材に満足したか

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
3．8点	4．0点	4．0点

このような研修を研修員はどう評価したのか、アンケートを実施しました。今年度は表の 7 月研修です。2015 年度は同様の研修を 2 回実施しましたので、過去の 5 月研修と 11 月研修を参考値として示しております。まず 8 名全員が研修内容は業務で応用できると回答しました。その上で研修目標は達成していると回答しました。研修デザインはプログラムデザイン、講義の質の高さと理解しやすさ、テキストと研修教材のいずれも満点でした。

研修員の反応 （4段階評価） 5月研修は5段階を4段階に換算

2. 研修デザイン（つづき）
   - 研修員の経験から学ぶことができたか

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
質問なし	3．6点	4．0点

   - 視察や実習など直接的な経験を得る機会

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
質問なし	3．2点	4．0点

   - 討議やワークショップなど主体的に参加する機会

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
質問なし	3．3点	3．5点

講義と視察、実習などの直接的な経験を得る機会を意図的に組み合わせた結果、研修全体の満足度は上がりました。

研修員の反応 （11月は9名、5月は5名）

3. 目標達成のための適切なファシリテーション

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
3．8点	3．8点	4．0点

4. 日本の社会的・文化的背景を理解できたと思いますか

5月研修（5段階）	11月研修	7月研修
質問なし	3．0点	3．1点

5. 改善を要する点（研修員全体の意見）
   - 病院の業務に即した実習をもっとやりたい（例：3 ways, KYT など）
   - 講師および研修員同士の意見交換の時間がもっとほしい（例：1時間で15分プレゼン、45分議論）

さらに目標達成のためのファシリテーションも満点でした。一方で、日本の社会的・文化的背景は、概ね理解したにとどまったようです。改善点には、3WAY や KYT など、病院の業務に即した実習を行いたいということ、ディスカッションの場がもっと欲しいことが挙げられました。これは毎年挙がる要望ですが、今後もディスカッションの時間を多く取ることなど工夫していきたいと思います。

研修員の反応

4. 研修の良かった点（研修員全体の意見）
   - 研修の組み方がベトナムの現状および研修員のニーズに即していた。たいへん合理的な内容であった。
   - 2週間の日程、20分間の休憩時間はちょうどよかった。
   - 選抜された研修員が研修テーマや科目に合っていた。仕事熱心な研修員ばかりだった。
   - 講師がよかった。技術があり技術を伝えることをいとわずに教えてくれた。
   - 講師は教え方、伝え方を工夫してくれた。

5. 要望（研修員全体の意見）
   - NCGMと質改善のチームに今後も同研修とベトナムの病院の質と安全に関心をもってほしい。
   - 経験を積んだ人を対象としたアドバンスドコースも開講してほしい（例：質管理課長など）。

研修員全体の意見としては、ニーズに即しており、講師の教える技術が高かったと好評でした。今後の要望としては、さらに質の高い内容が学べる場として、経験を積んだ人を対象とした実践的なアドバンスコースを開講して欲しいとの意見もありました。

（B）現地フォーラム（9月27日、28日、29日）

アンケートでは、このように良い評価を得られた訳ですが、評価が本当に実践に結びつくのか、もし実践に結びつかなければこのような研修を行っても意味はないと考えました。そこで、本事業では現地フォーラムの機会を設けました。これは、研修員がアクションプランの形で整理した優先課題に関する実践経験を共有する場です。本年度は 2016 年 9 月末に医療の質・安全フォーラムを開催し、研修生はその場で発表し、議論しております。プレイベントとしてダナン母子病院における病院見学ツアーも実施しました。このフォーラムは、実践していなければ発表する題材がありません。そのため、研修後の実践の有無を確認する役割を果たしています。

（B）現地フォーラム（9月27日、28日、29日）

参加者はどうだったかと言いますと、今回の修了生に加えて、前回、前々回の修了生からなるスピーカーが計 22 名いるのですが、そのうち 19 名がスピーカーとして参加しました。そしてオブザーバーとしては医療の質・安全に関係する者 85 名が参加しました。オブザーバーに対しては、我々は一切支援しておらず、「良かったら来てください」と招待しただけです。座席の配置もベトナム式では一列に並ぶものですが、無理を言ってディスカッションしやすい形にしてもらいました。

フォーラムでの議論
（例：2016年9月フォーラムのプログラム）

- 病院ツアー（ダナン母子病院）
- 議論
  1. どうやって5Sを効果的に導入するか（5演題）
  2. どうやってインシデント報告システムを機能させるか（3演題）
  3. 病院内の案内板と患者案内（1演題）
  4. どうやって臨床の質と安全を保証するか（4演題）
  5. どうやって待ち時間を減らすか（1演題）
  6. クオリティ・マネジメント部の役割
  7. QM/PSを推進するために院長に何ができるか（2演題）

優先課題として発表されたのは、こちらの 7 つのテーマです。

（C）ベトナム医療安全・院内感染
日・越共同セミナー

＜日程＞
6月27日(月) ～6月30日(木)

＜セミナーの内容＞
・対象病院における医療安全/院内感染対策の取り組み
・NCGM医療安全管理者の役割と実際
・NCGM感染対策の実際と感染管理看護師の役割
・日本医療機能評価機構の第三者評価について

＜対象病院：本邦研修参加者の所属病院＞
バクマイ病院、ハドン総合病院、チョーライ病院

続いて、医療安全・院内感染共同セミナーをバクマイ病院、ハドン総合病院、チョーライ病院の 3 カ所で開催しました。セミナーでは、日本とベトナムの知見を交換する、そしてベトナムの病院関係者を招集して、日本の専門家がさらにベトナムの事情をより学ぶ機会とするという狙いがありました。

バクマイ病院（北部国立病院）
参加者106名

ハドン総合病院（北部国立病院）
参加者102名

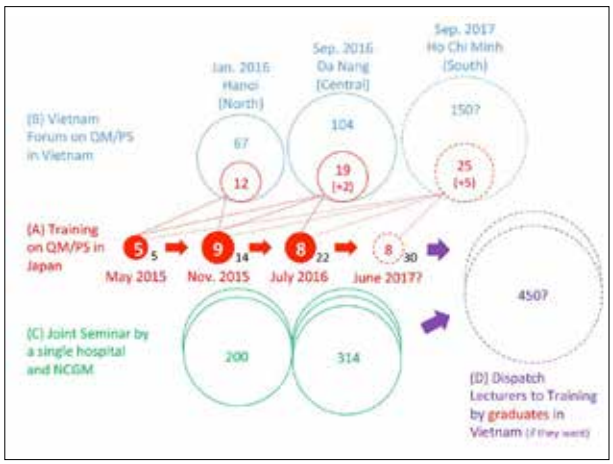
チョーライ病院（南部国立病院）
参加者106名

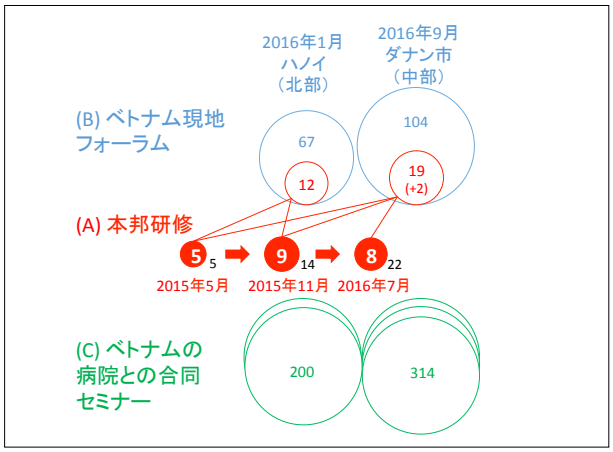
こちらは各病院のセミナーの様子です。

今年度の結果と今後の展開

- 延べ418名（57施設）に波及した。
- 修了生は医療の質・安全分野のクリティカル・マスとして活躍している。
- 本邦研修とフォーラムの支援が引き続き望まれる。
- 57施設は日本の医療機材への関心を高めるための足がかりとしても利用できる可能性がある。

まとめますと、本年度は延べ 418 名、57 施設に波及しました。修了生は若干 22 名ですが、418 名に影響を及ぼすという形で、ベトナム国の医療の質・安全分野のクリティカル・マスとして活躍しています。引き続き本邦研修とフォーラムの支援が望まれています。57 施設というのは、今後日本の医療機材への関心を高めるための足がかりとして利用出来る可能性があります。





FY2015	FY2016	FY2017
267	418	
27	57	

	北部 FY2015	中部 FY2016	南部 FY2017
	27	57	???
北部	16	18	??
中部	2	27	??
南部	6	6	??
その他	3	6	?

本事業の活動はベトナム国で年々影響を伸ばしております。もし次年度も本事業が実施できたならば本邦研修の修了生は計 30 名、フォーラムのオブザーバーは 120 名、関係施設は 80 施設を超えるインパクトに発展すると予想されます。

ご清聴いただき、ありがとうございました。